

Protozoology Newsletter

September, 2012

日本原生動物学会会報 (No. 23)

URL: <http://protozoology.jp/>

第 45 回大会 (兵庫) のご案内 (第 2 報)

平成 23 年度 奨励賞 受賞者コメント

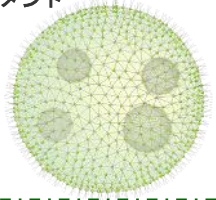
平成 23 年度大会 BPA 受賞者コメント

若手の会 通信

原生動物学関連の学会開催情報

編集委員会からのお知らせ

事務局からのお知らせ



第 45 回 日本原生動物学会大会 (兵庫) のご案内 (第 2 報)

大会長 園部 誠司 (兵庫県立大学大学院)

第 45 回 日本原生動物学会大会を 11 月 23 日から 25 日までの 3 日間、兵庫県立大学姫路書写キャンパス (姫路市) にて行います。昨年の大会でご報告致しました会期と場所を変更し、ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。皆様のご参加をお待ちしております。

【各種締切】 参加申込み: 10 月 14 日 (日) プログラム掲載用抄録: 10 月 14 日 (日) 英文抄録: 11 月 22 日 (木)

1. 会期 2012 年 11 月 23 日 (金) ~ 11 月 25 日 (日)
2. 会場 兵庫県立大学 姫路書写キャンパス (他キャンパスと間違えないようご注意ください)
5 号館 (一般講演、総会、評議員会、シンポジウム、原生動物フェスティバル*)
大学会館 (懇親会)
* 小・中・高の先生を対象に原生動物の普及活動: 観察、配布、講演会、ビデオ上映などを行う
3. 大会事務局 〒 678-1205 赤穂郡上郡町光都 3-2-1 兵庫県立大学 理学部 第 45 回日本原生動物学会大会事務局 大会長 園部 誠司
Tel: 0791-58-0176 (園部携帯: 090-9880-7208)
Fax: 0791-58-0175 E-mail: sonobe@sci.u-hyogo.ac.jp
4. 一般講演の発表
(1) 口頭発表 15 分 (発表 12 分、討論 3 分)
発表には液晶プロジェクターを使用します。各自でパソコン (PC) をお持ちください。PC の操作は発表者をお願いします。事前に動作を確認してください (午前の発表者は 8:10-8:50 の間または中休みの間に、午後の発表者は昼休みをお願いします)。35mm スライドおよび OHP は使用できません。
(2) ポスター発表
ポスターは縦 170 cm x 横 110 cm に収まるようにご用意ください。11 月 23 日 (金) の午後よりポスター掲示可能です。
※ 発表は日本語あるいは英語で行ってください。なお、発表演題数により、発表方法・発表時間の変更をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。
5. 若手の会・評議員会合同懇親会 11 月 23 日 (金) 18:00 より大学会館 1 階 生協食堂にて行います。どなたでもご参加いただけます。
6. 大会懇親会 11 月 24 日 (土) 18:00 より大学会館 1 階 生協食堂にて行います。
7. 参加費 大会当日に会場受付にてお支払いください。
大会参加費: 一般会員 3,000 円 学生会員 1,000 円
若手の会・評議員会合同懇親会費: 2,500 円
大会懇親会費: 一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円
8. 参加申込み 「参加申込用フォーマット」に従って、大会事務局の電子メールアドレス (sonobe@sci.u-hyogo.ac.jp) にお送りください。件名は「参加登録」としてください。なお、電子メールをご利用にならない場合は、園部 (Tel: 0791-58-0176) までお問い合わせください。締切は 2012 年 10 月 14 日 (日) です。なお、10 月 25 日 (木) までに事務局から返信メールが届かない場合には、お手数ですが、大会事務局にお問い合わせください。
9. 一般講演の発表申込み 発表の申込みは、次の「プログラム掲載用抄録作成要領」に従って作成し、参加申込みと共にメールの添付ファイルとして大会事務局 (sonobe@sci.u-hyogo.ac.jp) に送信してください。締切は 10 月 14 日 (日) です。なお、10 月 25 日 (木) までに大会事務局から返信メールが届かない場合には、お手数ですが、大会事務局にお問い合わせください。発表は 1 人 1 題です。共同研究者が発表する場合には、発表申込みは必要ありません。実際に発表する方は日本原生動物学会の会員に限られます。学会未加入の発表予定者は、予め入会手続きをお願いします。入会申込書は原生動物学雑誌の各巻 1 号末か学会ホームページ (<http://protozoology.jp>) にありますので、記入後、日本原生動物学会事務局に郵送してください。

【参加申込用フォーマット】

- 1) 郵便番号
- 2) 住所
- 3) 所属
- 4) 氏名 (ふりがな)
- 5) 電子メールアドレス
- 6) 電話番号
- 7) 一般・学生 (どちらかを選択)
- 8) 発表 あり・なし (どちらかを選択)
- 9) 若手の会・評議員会合同懇親会 参加・不参加 (どちらかを選択)
- 10) 大会懇親会 参加・不参加 (どちらかを選択)
- 11) 24 日 (土) 昼食 (500 円程度) 希望する・希望しない (どちらかを選択)
- 12) 25 日 (日) 昼食 (500 円程度) 希望する・希望しない (どちらかを選択)

※ 11 月 24 日 (土) は生協食堂も営業しておりますが、混雑が予想されます。11 月 25 日 (日) は生協食堂は営業していません。

【プログラム掲載用抄録作成要領】

※ 下記のフォーマットに従い、MS-Word で作成してください。Mac ユーザーはファイル名に ".doc" の拡張子を付けてください。

- 1) 発表の形式 口頭発表・ポスター発表 (どちらかを選択)
※ 発表演題数により、発表方法・発表時間の変更をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いいたします。
- 2) 和文タイトル
- 3) 和文発表者氏名 (全員) (所属)
※ 共同研究の場合は発表者の前に○を付けてください。所属が異なる場合は上付きの 1, 2, 3... で区別してください。
- 4) 英文タイトル
- 5) 英文発表者氏名 (全員) (所属)
※ 共同研究の場合は発表者の前に○を付けてください。所属が異なる場合は上付きの 1, 2, 3... で区別してください。
- 6) 和文 (全角 250 字以内) あるいは英文 (200 words 以内) の要旨
※ 英文の場合は著者の責任で適切な校閲を行った上でご提出ください。

※ 35 歳以下 (平成 24 年 6 月 30 日現在) の筆頭発表者を対象とした「ベストプレゼンテーション賞 (BPA)」が選考・授与されます。該当する発表者はタイトルの後に「BPA 対象演題」と必ずご明記ください。

【英文抄録 (原生動物学雑誌掲載用) 作成要領】

※ 編集委員会は和文・英文の抄録を学会ホームページに掲載します。昨年度から、従来の原生動物学雑誌掲載用の長文の講演要旨の作成は不要となりました。ホームページ掲載用の英文抄録の原稿は、下記の要領に従って MS-Word で作成してください。Mac ユーザーはファイル名に ".doc" の拡張子を付けてください。英文抄録用原稿は、大会前日 (11 月 22 日 厳守) までに、大会事務局 (sonobe@sci.u-hyogo.ac.jp) まで送信してください。件名は「英文抄録」としてください。なお、電子メールをご利用にならない場合は、大会事務局までお問い合わせください。

- 1) 英文タイトル
- 2) 英文発表者氏名 (全員) (所属)
※ 共同研究の場合は発表者の前に○を付けてください。所属が異なる場合は上付きの 1, 2, 3... で区別してください。
- 3) 英文抄録 (200 words 以内)

※ 英文は著者の責任で適切な校閲を行った上でご提出ください。

※ プログラム掲載用抄録を英文で提出した場合には、ホームページ掲載用の抄録の原稿を改めて提出する必要はありません。

10. 宿泊

JR 姫路駅周辺にホテルがありますので、各自でご予約ください。下記以外にもあります。

東横イン姫路 (Tel: 079 - 284 - 1045)	ホテル姫路プラザ (Tel: 079 - 281 - 9000)
ホテル日航姫路 (Tel: 079 - 222 - 2231)	ホテルアルファワン姫路南口 (Tel: 079 - 226 - 0006)
ドリーミーイン姫路 (Tel: 079 - 286 - 5489)	

11. 大会スケジュール

11月23日(金)

10:00 - 17:00 原生動物フェスティバル
10:30 - 14:00 シンポジウム 1
14:00 - 18:00 評議員会
17:00 - 若手の会企画
18:00 - 20:00 若手の会・評議員会合同懇親会

11月24日(土)

09:00 - 12:10 口頭発表
12:10 - 13:00 昼食
13:00 - 13:30 ポスター紹介
13:30 - 14:45 ポスター発表
14:45 - 15:45 口頭発表
16:00 - 18:00 総会、授賞式
18:00 - 20:00 大会懇親会

シンポジウム 1 「細胞内共生と生物進化の新たなトレンド」
シンポジウム 2 「滑走運動の生物学」

11月25日(日)

09:00 - 12:00 口頭発表
12:30 - 12:45 BPA 授賞式
13:30 - 16:30 シンポジウム 2

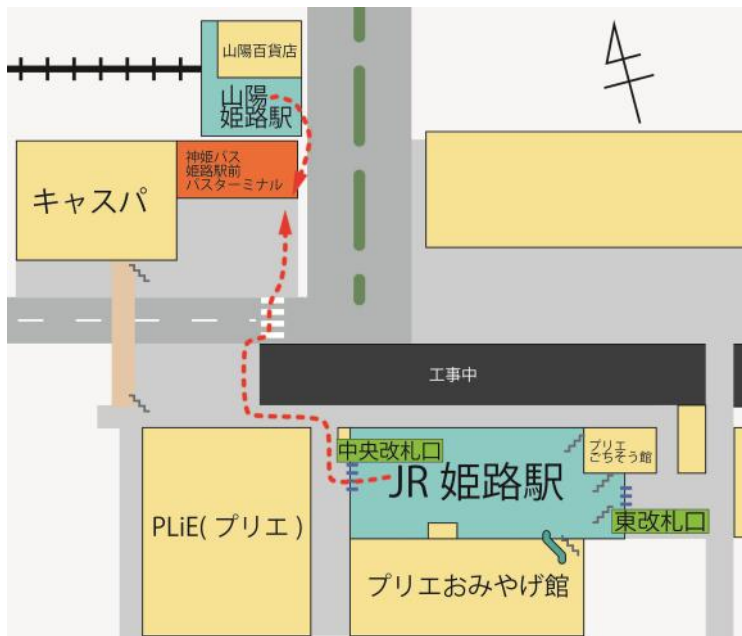
※ スケジュールは変更されることがあります。



姫路書写キャンパス正門

12. アクセス

JR 姫路駅（山陽本線・新幹線）中央改札口または山陽姫路駅下車、神姫バス「姫路駅前」バスターミナルより、41 - 45 系統に乗車、「県立大工学部」で下車してください（乗車時間は 25 分程度）。



姫路駅からバスターミナルへのアクセス



姫路書写キャンパス構内図

一般講演、総会、評議員会、シンポジウム、原生動物フェスティバルは 5 号館で、若手の会・評議員会合同懇親会および大会懇親会は学生会館 1 階生協食堂にて開催予定です。

平成 23 年度 奨励賞 受賞者コメント

明松 隆彦 (AKEMATSU, Takahiko) York University, Banting Postdoctoral Fellow, CANADA

この度は大変に名誉のある賞をいただき、喜びと同時に将来への責任を感じております。候補者として推薦して下さいました東北大学の福田康弘先生に感謝申し上げます。

私は高知大学の松岡達臣先生の下で細胞生物学を学び、金沢大学の遠藤浩先生の下で分子生物学を学び、そして現在はカナダ・York 大学の Pearlman 博士の下で繊毛虫の研究を続けております。私の誇りは、素晴らしい指導教官に恵まれてきたことです。先生方の背中を見て、私は研究という仕事に更なる情熱をもつようになりました。

さて、移民の国カナダで約二年間過して感じるのは、“日本人としての誇りをもつ”ことの重要性です。どうも我々は（主に語学力を理由に）自らを過小評価する傾向がありますが、日本人の能力が如何に優れたものであるかは歴史が証明しています。現在は失われつつあるのかもしれませんが、我々が本来備えるべき国民性は世界に誇れるものです。なぜ後手に回る必要があるのでしょうか。もし若手研究者の皆様が海外渡航の機会が巡ってきたのなら、臆することなく飛び込み、日本人として培ってきた感性が通用するか否かを試してみることを勧めます。もちろん苦しいことは山ほどありますが、それ以上に得るものが大きいことを私は実感しています。

研究者となったからには、自分の看板となる成果をあげたいものです。未来は誰にも分かりませんが、出来る限りの挑戦を続けたいと思います。



FASEB ciliate molecular biology 2011 in Greeceにて。現在のポストである Pearlman 博士（中央）の計らいで、岩本政明博士（左 2）や Orias 博士（右端）のラボの皆様と食事をする機会を得ました。

平成 23 年度 大会 Best Presentation Award 受賞者コメント

早川 昌志 (HAYAKAWA, Masashi)

神戸大学大学院 理学研究科・博士後期 1 年

第 44 回の奈良大会にて BPA を頂きました。原生動物学会の研究発表はどれもユニークで素晴らしく、本来、順位付けなどできるものではないのですが、今回、BPA を頂けてとても嬉しく思っております。原生動物や藻類といった多様な原生生物の世界に眠る面白さと奥深さを、更に掘り下げて広めていくことが、まだまだ未熟ながらも私の研究生活の使命だと思っています。本発表を聞いて下さった皆様が、ミドリゾウリムシだけではなく共生クロレラを持つ生物の多様さに、より身近に思ってもらえたら幸いです。本研究を遂行するにあたって、自由に研究をさせて下りながらも、適切にアドバイスを下さった洲崎敏伸先生、評議員の皆様をはじめ、本発表を聞いて下さった全ての皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。そして何よりも、拙い実験に付き合っていたいただいたマイクロ生物たち、ありがとうございます！



滝川 祥子 (TAKIKAWA, Sachiko)

金沢大学 理工学域・自然システム学類 4 年

小学生の時、何気なく見ていたテレビでゾウリムシの紹介をしていました(ちなみに出演していたのは、奈良女子大学の高木先生です)。その番組を見て、小学生ながら「1 つの細胞だけで生物が生きていくのに必要な全能力をもっているなんて、すごいな！」と感動しました。それがきっかけで微生物関係のテレビ番組を見たり、誕生日におもちの顕微鏡を買ってもらってゾウリムシを探してみたりして、生物学に興味をもち、理学系の生物学が学べる金沢大学に進みました。まさか金沢大学で生物学を学ぶきっかけをくれたゾウリムシの研究が出来るとは思っていなく、さらにその研究がゾウリムシの有性生殖の開始に関わる因子(MS2 遺伝子)の解明という非常に興味深いもので、今では金沢大学にいられたことを入学当時以上にとても幸運に思っています。今回の受賞を励みに日々精進し、このユニークな生物の有性生殖初期の解析に少しでも関わられるよう頑張ります。



若手の会通信

若手の会HPをぜひご覧ください

<http://www.geocities.jp/youngprotozoologists/>

若手の会メーリングリストへのご登録をお願いします

protozoologists-subscribe@yahoogroups.jp に空メールを送るだけ！

第 45 回日本原生動物学会大会 シンポジウム 1 「細胞内共生と生物進化の新たなトレンド」

(共催：若手の会・学会活性化委員会・新学術領域「マトリョーシカ型進化原理」)

本年度よりスタートした新学術領域「マトリョーシカ型進化原理」について、領域・活性化委員会と共催でシンポジウムを行います。生物の内部共生・オルガネラ化に焦点を当てた新たな進化学の提案で、刺激的な発表が多く行われると思います。発表は原則として、各研究班で実際に研究する若手研究者が行います。どうぞ奮ってご参加ください。

日時：2012 年 11 月 23 日(金) 日本原生動物学会 兵庫大会初日

会場：兵庫県立大学書写キャンパス(姫路)

若手の会主催 招待講演会

発表者募集中！ 発表者募集締め切りは9月30日(金)

原生動物学を志す若手研究者には、形態分類が得意な人、分子生物学が好きな人、そのほかさまざまなバラエティが存在します。自分の研究には一言お持ちの方も、分野外のことは「なんとなくそうになっている」と認識していませんか？本講演会では、教科書にも登場するような「あたりまえ」について研究する若手研究者をお招きして、それらの現象がいかに奥深い講演を行って頂きます。演題は未定ですが、分子分類の置換モデルについて、細胞内の膜輸送メカニズムについて、などを予定しています。この機会にぜひ、あなたの「あたりまえ」をブレイクしてみたいかがでしょうか。

日時：2012 年 11 月 23 日(金) 日本原生動物学会 兵庫大会初日

会場：兵庫県立大学書写キャンパス(姫路)

発表者数：4~5 名(予定)

発表希望者は松原 (matsubarar2008@yahoo.co.jp) までご連絡ください。

若手の会 役員募集！！

日本原生動物学会若手の会役員募集中！私たちと一緒に若手の会の企画、運営をしてみませんか？35 歳以下の原生生物研究者なら、どなたでも役員になることができます。興味のある方は松原 (matsubarar2008@yahoo.co.jp) までご連絡ください。

若手の会・評議員会 合同懇親会のご案内

今年も学会を通じて若手研究者の交流を深める懇親会を行います。若手から先生方まで、多くの方々の参加をお待ちしております。初めて参加の方も大歓迎です！話しやすい雰囲気楽しんで頂けると幸いです。日時は追ってお知らせいたします。

※ 本年度はシンポジウム開催に伴い、若手の会ワークショップは開催しません。

原生動物園

原生生物専門の Web 科学雑誌「原生動物園」のホームページがリニューアルしました！今回は各記事に紹介文が付き、よりわかりやすくなっています。身近にいくらでもいるのに、知らないことだらけの小さな生物たち。本誌では、そんな原生生物について、気楽なコラムから真面目な総説まで扱っています。

ホームページ：<https://sites.google.com/site/protozoolgarden/home>

新規投稿も歓迎します。詳細は若手の会会長・松原 (matsubarar2008@yahoo.co.jp) か、若手の会編集長・早川 (masashi@stu.kobe-u.ac.jp) まで。ホームページ上の投稿方法欄もご参照ください。

原生動物学関連の学会開催情報

第83回日本動物学会大会関連集会「日本に生息する原生動物」

日時：2012 年 9 月 13 日 18:00 - 20:00

開催場所：大阪大学 豊中キャンパス 大会ホームページ：<http://www.zoology.or.jp/annual-meeting/1/>

第76回日本植物学会大会シンポジウム「マトリョーシカ型進化と植物」

日時：2012 年 9 月 15 日 14:30 - 17:00

開催場所：兵庫県立大学書写キャンパス(姫路) 大会ホームページ：<http://bsi.or.jp/bsi76/>

The 6th International Symposium on Testate Amoebae (ISTA6)

日時：2012 年 10 月 15 - 18 日

開催場所：Xiamen, CHINA 連絡先：Jun YANG (ista2012@iue.ac.cn)

FASEB Ciliate Molecular Biology Conference

日時：2013 年 7 月 7 - 12 日

開催場所：Colorado, USA 大会ホームページ：<http://www.faseb.org/src/Home.aspx>

14th International Congress of Protistology (ICOP XIV)

日時：2013 年 7 月 28 - 8 月 3 日

開催場所：Vancouver, Canada 大会ホームページ：<http://www.icoprotist.com/>

編集委員会からのお知らせ

日本原生動物学会 会員の皆様

本学会の学会誌である原生動物学雑誌の発刊予定について謹んで御連絡申し上げます。

現在発刊予定の原生動物学雑誌 第 45 巻 1 号に付きましては、2012 年 7 月現在における掲載論文数が不十分であることから、編集委員会において慎重に審議しました結果、第 45 巻 2号との合冊のかたちで発刊することと致しました。従いまして、2012 年 9 月を目処に 1 号と 2 号の合冊の発刊準備を進めて参ります。

これまでに国内外から複数のご投稿頂いておりますが、論文掲載にかかる手続き上致し方無い状況でございますので、皆様のご理解を頂けるようお願いする次第です。

尚、編集部では、今後益々の原生動物学雑誌の飛躍を目指し、努力して参る所存でございます。つきましては、学会員皆様にはご理解を賜りますとともに、原生動物学雑誌への積極的な論文の御投稿を是非ともお願い申し上げます。

2012 年 7 月 12 日 原生動物学雑誌 編集長 石田 正樹

E-mail: masaki@nara-edu.ac.jp

日本原生動物学会 Web Journal 化に関するアンケートの集計結果について

編集委員会では 2011 年 6 月 1 日より、表記アンケートを実施させて頂きました。2011 年 7 月末日の締め切りを 2011 年 11 月 15 日まで延長させて頂き、合計 64 名のご回答をいただきました。賛成反対を含め、多くの積極的な意見を頂くことができました。ご協力いただきました学会員の方々には、改めて感謝を申し上げます。

本アンケートの主旨を以下に簡単に申し上げます。本学会の学術雑誌である「原生動物学雑誌」について、編集委員会では冊子体の印刷部数の削減、Web Journal へ移行することを検討しており（方向性としては、2010 年の評議員会・総会で報告済み）、その手始めとして、これらの改革案に対する皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたく、アンケート調査を実施することに致しました。

アンケートさせて頂いた設問は以下の通りです。

【アンケート調査の設問】

質問 1. 雑誌の Web Journal 化についてお伺い致します。【回答：賛成・反対・どちらでもよい】

質問 2. 質問 1 に対するご回答の理由を自由記述でお願い致します。【回答：自由記述】

質問 3. もし、Web Journal となった場合でも「原生動物学雑誌」の冊子送付を希望されますか？
（「いいえ」を選択された方はこれでアンケートはすべて終わりです）【回答：はい・いいえ】

質問 4. 冊子体が有料でも送付を希望されますか？（「いいえ」を選択された方はこれでアンケートはすべて終わりです）【回答：はい・いいえ】

質問 5. 有料でも送付希望の方に伺います。年間購読料がいくらであれば希望されますか？ テキストボックス内に数字で（おおよその）金額を書いて下さい（参考：原生動物学雑誌の制作費はページ数にもよりますが、1 冊あたり約 900 円で、年間約 1,800 円程度が原価です）
【回答：自由記述】

ご意見 【自由にご意見をお書き下さい】

以下に、頂いた回答の主なものを掲載させていただきます。

【アンケート回答結果】

質問 1. および 質問 2.

どちらでもよい：3 名

＜意見＞ 「どちらでもよい」ではなく「どちらがよいかわからない」（1 名）

＜理由＞ Web Journal により削減できる経費と、冊子体刊行による必要経費の相関が示されていないため、判断できない。
（例：冊子体の発行部数と配布経費は比例するが、製版印刷費は部数に比例して削減されない）

反対：4 名

＜意見＞ 紙のほうが読みやすい（画面上で文字を読むことは苦手）（1 名）

原生動物学雑誌の将来像へ、編集委員会の具体的なイメージを示すべき（＝時期尚早？）（3 名）

将来像の見えない改革は休刊の危機を導く（2 名） / 具体的なメリット・デメリットを示すべき（3 名）

既に Web Journal である（1 名） / 英和の分離を検討すべき（1 名）

賛成：51 名

＜意見＞ PubMed 等のウェブページから、世界中の研究者が簡単にアクセスできる条件を整えること（インパクトファクターが低くても、グローバルにオープンなアクセスを実現すべき / 閲覧者数、ならびに本雑誌に掲載された論文の引用が飛躍的に増加すると期待される）（16 名） / コスト削減に不可欠（13 名） / 保管スペースの削減（5 名） / 検索方法を充実してほしい（2 名）
カラーは PDF しか用意されないため、結局はダウンロードしている（1 名） / できれば冊子を残してほしい（1 名）

質問 3. はい：10 名 いいえ：54 名

質問 4. はい：6 名 いいえ：4 名

質問 5. 冊子の価格：回答 5 名（2,000 円：1 名、1,500 ～ 1,000 円：3 名、300 円：1 名）

【ご意見 および 自由記入欄 について】

下記に重要なものを書き出し、回答をつけました。

賛否両論がありながらも、いずれも学会のためを思っただけの活発なご意見でした。大変にありがとうございました。一方で誤解と思われるものもありましたので、それら一部を抜粋し、現編集部による回答を用意させて頂きました。

まず、現在の『原生動物学雑誌』は、web 上での公開をおこなっており、「web 媒体のほうがデータのやり取りが簡単、figure などもしっかりと見やすい / 冊子では白黒で表示される図も web 上ではカラーで表示される / 論文アクセプトごとの迅速なパブリッシュが期待できる」などの賛成票でみられたご意見は、既に何年も前から実現されていることです。Web に公開され、歴代の編集長および編集委員が苦心し、カラー化、論文アクセプトごとの迅速なパブリッシュを行っています。このことは、現在の編集部でも同様継続されています。今回のアンケートでは Web Journal 化という表現が誤

解を生んだと考えて反省しております。

しかし、一方で Web Journal 化という言葉には、単なるインターネット上での公開を超え、インターネット上で公開されている様々な雑誌と肩を並べ、相互閲覧してもらえるだけのクオリティに高めて行きたいという強い意志が込められていました。頂いたご意見にもありました通り、原生動物学雑誌の将来像へ、編集委員会の具体的なイメージを示すことは必要であると考えています。これまで総会等でも説明してまいりましたが、今後、さらに検討を重ね、具体的にご理解をいただけるように努めていきたいと思っております。

他にいくつかのご意見がございましたので、以下に具体的に回答を述べさせていただきます。

【ご意見 1】 Web Journal 化をすれば、将来的には J-STAGE への登載が可能となることですが、冊子体を廃止しないと、現在のままでは登載はできないのでしょうか。

【回答】 確かに、アンケート依頼文にはそのように取れる表現になっておりました。お詫びいたします。おっしゃられるように、J-STAGE 登載には完全 web 化は必要ありません。したがって、J-STAGE 登載のために web journal 化を目指すわけではありません。

【ご意見 2】 本学会の学術雑誌である原生動物学雑誌の更なる飛躍を目的とした提案とのことですが、原生動物学雑誌をどのような雑誌にしたいのかについて、形式的なことではなく、編集委員会の明確なお考えを示していただきたいと思っております。冊子体を廃止して、完全 Web Journal 化すれば、ますます目に触れる機会が少なくなり、投稿も減り、休刊への道をたどりそうな気がします。

【回答】 むしろ投稿数が非常に少ない現状のままでは、それこそ休刊への一本道です。それを避けるためには、J-STAGE から PubMed Central への登録を目指し、メジャーな論文検索サイトにて当誌の論文が検索されること、それによって雑誌タイトルの認知度を上昇させ、海外からを含めた投稿数を増加させることを実現しなければいけないと考えています。

【ご意見 2 (続き)】 そもそも、原生動物学雑誌を存続させたいのかどうか、どのような編集方針で、更なる飛躍を行おうとされているのか、その展望なしに冊子体をほぼ完全に廃止するというには賛成できません。編集委員会が考えを示すことが難しければ、これこそ学会員に考えを聞くべき問題ではないかと思っております。

【回答】 当誌の存続と更なる飛躍を目指すための編集方針は、直上に書きました通りです。冊子体の廃止に関しましては、大手商業誌でない弱小学会誌の多くがその流れに飲み込まれているのが現状であり、学術誌のあり方の大きな転換点を迎えている時代なのだと思います。正に会員にご意見を伺うべき問題と考えたため、今回のアンケート調査をおこなった次第です。結果は別に示しますように、多くの会員の冊子体廃止へ向けた賛同が得られております。

【ご意見 3】 ある学会の機関紙が Web Journal 化することによって、学会員にさえ読まれない雑誌になった例もあり、冊子体配布が停止すると、そこに盛られた全ての情報が、身近な記事で無くなることは多くの人が経験している通りだ。

【回答】 学会員にさえ読まれない雑誌になるか、ならないかは、十分に注意する必要がある点ではないかと思っております。ご指摘ありがとうございます。例えば、先に完全 web 化された日本細胞生物学会の学会誌 Cell Structure and Function のように、電子公開と同時に新着論文のアラートが全会員にメールで送信され、クリックひとつで、該当論文を閲覧できるようにするなど、雑誌を身近に感じられる工夫は凝らすことができると思っております。この点は編集委員でも議論していくようにいたします。

【ご意見 3 (続き)】 それでも掲載論文が「世界が目にするに値する」レベルであれば、専門雑誌としての生命は保たれるが、もし「原生動物学雑誌」を学会員が気軽に意見交換しあえるような雑誌にしたいと考えるなら、Web Journal では実現しえないだろう。

【回答】 編集委員会では、当誌を学会員が気軽に意見交換しあえるような雑誌にしたいとは考えておりません。原生動物学雑誌を存続させ、発展させていくためには、そのような同人誌的な状況を脱却し、真に国際的な学術誌へと変貌させることが不可欠と考えています。

【ご意見 3 (続き)】 従って「原生動物学雑誌」をどのような雑誌として位置づけるかを明確にした上でないと、性急なアンケートで結論することは危険だと考える。ここには「反対」と書いたが、正確には「時期尚早」という意味と解して頂きたい。

【回答】 我々が目指す雑誌の位置付けは上にも書きました通り、国際レベルの学術誌であります。昨今は、学術誌のあり方が大きく変わろうとしている転換期であり、同時に原生動物学雑誌も変革せざるを得ない状況に置かれています。議論し、変わらねばならない時が今であると考えます。

【自由記入欄】 学会の支出の適正化が問題なのであれば、それに対して学会誌の印刷部数を削減することが本当に適切な方策なのかをまず検討するべきです。

【回答】 ご存知のように学会支出の大半を占めている学会誌発行経費ですから、学会支出を議論するうえで最も優先して検討されてしかるべき課題ではないでしょうか。しかしながら学会の支出の適正化は、編集委員会ではなく、評議員会で議論されるべき問題でもあります。

最後に、今後も当編集委員会では原生動物学雑誌をより良きものとするために、現在のシステムを改善するとともに、この機に大きく発展させようと多くの議論を重ねてきました。アンケートに関しては、回答を誘導することがないよう、記述の表現に細心の注意を払いました。そのため我々の意気込みが質問者には伝わらなかった部分もあるかと思っておりますが、この部分につきましては、今回の回答の部分に盛り込ませて頂きました。繰り返しになりますが、今後、さらに検討を重ね、具体的にご理解をいただけるように努めていきたいと思っております。

日本原生動物学会 編集委員会

事務局からのお知らせ

日本原生動物学会会長および評議員選挙投票のお願い

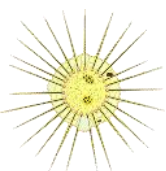
日本原生動物学会会則第 5 条により、現会長および評議員は今大会（平成 24 年 11 月 25 日）をもって 3 年の任期を満了いたします。つきましては、次期会長および評議員の選挙を行いたく存じますので、下記の事項にご注意の上漏れなく投票下さいますようご協力お願い申し上げます。

本学会は会長および評議員選挙細則を定めておりませんが、慣例により選挙事務を庶務担当評議員が、また、開票作業は平成 24 年 9 月下旬、庶務担当評議員在任地近郊の評議員（堀 学、末友靖隆、藤島政博）による立ち会いで山口大学にて実施させていただきます。

投票の締め切りは 2012 年 9 月 24 日（月曜・必着）です。漏れなく投票いただきますよう、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

庶務担当評議員 堀 学

E-mail: mhori@yamaguchi-u.ac.jp 〒 753 - 8512 山口大学理学部 生物・化学科



編集・刊行 日本原生動物学会 編集局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学内（編集委員長：石田 正樹）

Tel / Fax: 0742-27-9198 E-mail: masaki@nara-edu.ac.jp

ニュースレター編集担当 末友 靖隆（岩国市立ミクロ生物館）

Newsletter 23 号は学会ホームページからもダウンロードできます。非会員の方への宣伝等にぜひご活用ください。

http://protozoology.jp/journal/nl_letter/NL23.pdf